

はなみずき

VOL
47

令和3年 新春特大号

迎春

新年あけましておめでとございます

謹賀新年 本年も宜しく願い申し上げます。

旧年中は新型コロナウイルス感染症(COVID-19)との闘いに追われた一年でした。皆さまの生活にも色々な面で影響を及ぼしたものと拝察します。右田病院においても、指定二次救急医療機関として多くのCOVID-19疑い症状患者を受入れ、本稿を書いている令和2年11月現在も第3波の訪れに緊張の日々が続いています。刻一刻と上書きされる情報に翻弄され、医療現場の対応に追われているうちに一年の歳月が過ぎ去った印象です。

その一方で、コロナ禍後の社会に向けて準備を着々と進めてまいりました。昨年から新たにChallenge101と称する中期3か年計画を立ち上げ、次の3つの取り組みを行っています。

一つ目は「プレホスピタルの強化」で、昨年7月にみぎたクリニックをリニューアルオープンさせています。同クリニックでは女性が永く健やかに暮らせる街づくりを目指しつつ、高齢社会に備えて予防医療を充実させ、健康寿命延伸の支援に取り組んでいます。

二つ目は「地域包括ケア病院」ということで、右田病院の掲げる「地域のホームホスピタル」を体現すべく、昨年6月から高齢者医療の充実を目的に増床増築工事を開始しています。現在82床の病院規模を118床へ拡張し、6月には完成、7月にオープンの予定です。これに伴い新たにスタッフを増員する計画です。工事中は皆さまにご不便をおかけして大変申し訳ございませんが、どうかご理解いただけますようお願い申し上げます。

そして三つ目は、職員の皆さんの「働き方の見直し」です。このコロナ禍でおわかりいただけるように、医療従事者はリスクの最前線にいて365日24時間の勤務体制を求められるため、その働き方の見直しが必要です。またこうした中でも職員一人ひとりがやりがいと目標をもって仕事ができるよう、職場の環境づくりと、スタッフ増員に備えて研修体制の整備が急務と考えています。現在プロジェクトを立ち上げて新しい体制づくりに取り組んでいるところです。

令和3年の新年は、十干十二支の辛丑に当たります。十干の辛(かのと)は五行説で金の属性から宝石の意味を持ち、十二支の丑(うし)は本来植物の成長に関わり、芽生える前の土中にある新芽を表すそうです。総じて明るい希望が生まれる少し前の状態と言えましょうか。COVID-19感染拡大の影響で厳しい状況が続いていますが、重たい土を跳ね除けて新芽が芽吹く様に、この状況にしなやかに柔軟に対応しつつ、希望をもって新年を新たな気持ちでスタートしたいと思っています。

末尾ながら皆様のご健勝とご多幸を祈念申し上げます。



医療法人財団 興和会
理事長 右田 敦之
(みぎた あつし)

入館時の検温に

新システム導入!!

新型コロナウイルスの第三波襲来やインフルエンザ流行の季節となり、病院では今まで以上に院内感染対策に注力していかなければなりません。そこで入館時の検温をスムーズに行えるよう新たに検温システムを導入しました。



今までは本院の職員が体温計を額にあて検温していましたが、このシステムは、自分で手首をセンサーにかざし体温を画面に表示させ音声でお知らせするシステムとなっています。さらに画面上部に設置してあるカメラでマスク着用の有無を確認しています。

慣れてしまえば自分で簡単に検温することができますが、初めてで使い方がわからない方のために警備員を配置し、使い方の説明を行っています。

うつさない、うつらない安全で安心な病院としていきますので、皆さまのご協力をよろしくお願い申し上げます。

施設仕入管理担当 飯塚 光明



薬のおはなし

感染症とワクチンと治療薬と



『人類の歴史は感染症との戦いの歴史』という言葉がありますが、今まさに私たちは新型コロナウイルスという感染症と戦っています。感染症に対しては、免疫力を高めて感染もしくは重症化しにくくさせるワクチンと、感染した場合に治療のために症状に合わせて使用する治療薬があります。

インフルエンザウイルスのワクチンと治療薬

ワクチン

インフルエンザワクチンは1930年代にアメリカ合衆国において開発がはじまり、日本においては1951年にワクチンの接種が実施されました。

現在接種しているワクチンと同様な製造方法になったのは1972年からで副反応をより少なくするような処理方法へ変更となっています。

治療薬

治療薬ではアマンタジンというお薬が抗ウイルス作用があるとして日本においては1998年より使用されています。2001年よりはノイラミターゼ阻害剤という抗ウイルス剤が使用され、現在はタミフル・リレンザ・イナビル・ラビアクタ、オセルタミビル等多様な種類があります。

さらに2019年からは新しい作用機序のソフルーザという治療薬が登場しました。

インフルエンザは1918年のスペインかぜ、1957年のアジアかぜ、1968年の香港かぜ、最近では、2009年の新型インフルエンザ等世界的流行を繰り返していますが、現在では対応策のある感染症となってきています。

新型コロナウイルスにおいてワクチンや治療薬は開発が急がれている状態です。私たちにできることとしてひとりひとりが注意し、手洗い・マスク着用・密を避けた行動などを行い、2021年もウイルスの拡大を防いでいきましょう。

薬剤師 田中 登紀子

増築工事の現状

皆様ご存知の通り病院東側に増築の建設工事中ですが、だいぶ形となってきました。昨年11月下旬の段階で2階まで柱が立ち上がり、この“はなみずき新春特大号”が発刊される頃には3階くらいまで伸びていると思います。



11月現状



完成外観

今後の計画では今年6月中の完成、7月1日OPEN(予定)です。
OPENの際には1階は駐車場、2階はリハビリテーション室の拡充、3階・4階は各18床ずつ増床することとなります。
これから半年間騒音等で更にご迷惑をお掛けしますが、完成の際には患者様の利用しやすい病院になるよう完成・OPENを目指していきます。



法人本部本部長 菊地 晶紀



医療法人財団興和会 右田病院

住所:〒192-0043 東京都八王子市暁町1-48-18
TEL:042-622-5155(代表)

院長 右田 隆之

従業員数 190名 開設 昭和8年11月

標榜科目

- ・消化器外科・整形外科・呼吸器外科・乳腺外科
- ・形成外科・外科・消化器内科・循環器内科
- ・内科・泌尿器科・皮膚科・麻酔科
- ・リハビリテーション科・救急科

病床数

- 地域包括ケア病棟 82床

- 東京都指定二次救急医療機関/在宅療養支援病院
- 日本外科学会認定専門医制度関連施設
- 日本整形外科学会専門医師研修施設
- 日本静脈経腸栄養学会NST稼働認定施設
- 日本栄養療法推進協議会NST稼働認定施設

アクセス

- 京王八王子駅下車徒歩17分
- JR八王子駅下車徒歩22分
- JR八王子駅・京王八王子駅より
「宇津木台行」・「ひよどり山トンネル経由創価大学行」
「ひよどり山トンネル経由富士美術館行」・「ひよどり山トンネル経由戸吹行」
上記各バス「八王子郵便局」バス停下車徒歩4分

医療法人財団興和会 みぎたクリニック

住所:〒192-0066 東京都八王子市本町13-8
TEL:042-621-5655(代表)

院長 鴨 宣之

従業員数 40名 開設 令和2年7月

検診内容:人間ドック・各種健診 診療科:乳腺科・内科

マンモグラフィ精度管理中央委員会認定施設

アクセス

- JR八王子駅下車徒歩15分
- 路線バス 西東京・京王バス「八日町一丁目」バス停下車徒歩5分

MAP





検査のお話

感染症とは？

感染症とは、**病原体**(細菌・ウイルス等)が体内に侵入・増幅し、発熱、嘔吐、咳、下痢など様々な症状を引き起こすことです。

病原体により症状も異なり、**病原体の感染力**と**身体の抵抗力**の兼ね合いで症状が現れないこともあります。

病原体が体内に侵入する**感染経路**は、主に「**空気感染**」「**飛沫感染**」「**接触感染**」があります。それぞれの病原体の感染経路を知り、その経路を遮断することによって、**効果的な感染対策**が実施できるのです。

冬季に流行する感染症に**インフルエンザ**がありますが、今年の冬は**新型コロナウイルス感染症**についても十分に注意する必要があります。発熱した患者様について、インフルエンザと新型コロナウイルス感染症が共に鑑別診断の対象疾患となってきます。症状の類似点が多いため、最初の診断のステップは**遺伝子診断**か**抗原検査**となります。

新型コロナウイルス感染症に関連する検査には、●**PCR検査** ●**抗原検査** ●**抗体検査**があります。

PCR検査とは…

ポリマーゼ連鎖反応の略で、**ウイルスの遺伝子を増幅する**(人工的に複製して増やす)検査方法です。PCR検査は新型コロナウイルス感染症の**確定診断**に用います。

抗原検査とは…

ウイルスに感染した細胞が特異的に産生する**抗原を検知する**検査です。この検査は結果判定まで約30分と非常に**最短**で検査ができ、特別な検査機器を使用せずに検査ができるというメリットがありますが、ある程度のウイルス量がないと検出することができません。

抗体検査とは…

新型コロナウイルス感染症に**感染していたかどうかを調べる**検査です。新型コロナウイルスに感染すると形成されるタンパク質が体内にあるかどうかを検査します。

新型コロナウイルス感染症における検査は、医師が必要だと判断した場合検査を受けることができます。

新型コロナウイルス感染症かもしれない…

と思ったら、医療機関を受診される前に、**必ず電話で連絡**をしてから、受診するようご注意ください。

臨床検査技師 安藤 美穂子



インフルエンザ・コロナに負けない 体作り



栄養士のひとりごと

昨今の感染症予防対策として手洗い、うがい、マスク、消毒など毎日の生活の中でできることは気を付けていると思いますが、予防策の一つとして**自分自身が病気に負けない体を作っていく**ことも重要です。そこで免疫力をアップさせる方法を食事、運動から考えてみました。

免疫には、●**自然免疫**と●**獲得免疫**があります。

自然免疫

自然免疫は、人間に元々備わっているしくみで**病原体をいち早く認識し攻撃**します。

日々の生活習慣で強化できるのは自然免疫です。ある特定の食品だけを食べて免疫力がアップすることはありません。さまざまな食材を組み合わせると**バランスよく**食べます。**主食、主菜、副菜、乳製品、果物**を組み合わせる食事を心がけましょう。主菜は肉、魚、卵、大豆製品などの**たんぱく質**が中心となりますが、筋肉や体の組織となり、免疫細胞の**エネルギー**にもなります。副菜には人参、ほうれん草、ブロッコリー、かぼちゃなど**緑黄色野菜**を多めに使うと**ビタミンA、C**が効率よくとれ**抗酸化作用**が期待できます。腸には多くの免疫細胞が存在するため**ヨーグルト、納豆**などの**発酵食品**から乳酸菌を摂取し**腸内環境を整える**ことも有効です。

獲得免疫

獲得免疫は、1度かかった病気の抗体ができ、次に**かかりにくくなったり、ワクチン**を接種することで得られる免疫です。

運動については**適度な運動**が免疫細胞活性化に効果的です。**運動強度が強すぎると逆に感染症を起しやすくなる**ことがあります。運動は継続が必要で、免疫力を持続させるためには、**会話できる程度のウォーキングを1日おきに1回30分程度**行うことをおすすめします。

その他軽い筋力トレーニングも有効で、**スクワット**などの自重を使った**下肢筋力**のトレーニングを仕事や家事の合間など、気が付いた時に行うと良いです。

もうひとつ、**笑うこと**も免疫細胞活性化に繋がるので日々楽しく過ごしていきたいですね。

管理栄養士・健康運動指導士 藤江 美智子

